

発話の終わりを予測するシステムの開発

このテーマのキーワード	音声インタラクション
関連するSDGs開発目標	 

研究内容(社会背景・目的、概要、期待される効果)

(社会背景・目的)

人間は会話において円滑な話者交替を行うために、割り込みや不必要な間が生じないように会話の間合いを計っています(図1)。これは話し手の発話末を聞き手が予測していなければなし得ない事象ですが、人間がどのような手がかりを用いて発話末予測を行なっているかは不明です。そこで、この研究では発話末予測に関わる音声・言語特徴を明らかにすることを目的としています。

(概要)

- ・自発会話音声データの収集とコーパス化
- ・発話の終わりを特徴づける音声情報の分析(図2)
- ・人間が発話末予測に用いている音声・言語情報の解明
- ・発話末予測モデルの構築

(期待される効果)

本研究の成果から工学的応用として、人間とコンピュータシステムとの自然な会話インタラクションが実現できるようになります。

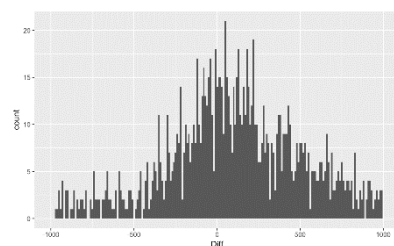


図1 話者交替時に前話者から次話者への遷移にかかる時間

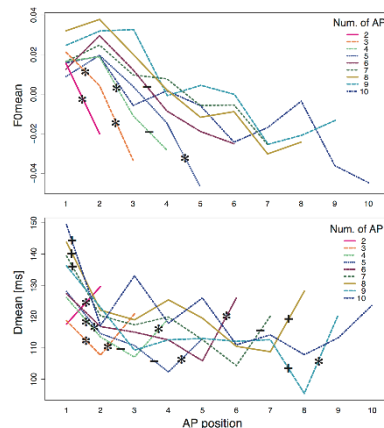


図2 アクセント句単位の韻律変化(上:基本周波数、下:モーラ長)

想定される適用分野・用途・業界

- 音声エージェント
- コミュニケーションロボット
- 福祉機器

産業界へのアピールポイント

- 自然な会話を行うコンピュータエージェント・ロボットの開発が期待できます。

情報メカトロニクス学科 石本 祐一 准教授

このテーマに関するお問合せ ものづくり研究情報センター
E-mail : mric@iot.ac.jp TEL : 048-564-3880